

被災地で学習支援を利用する中高生支援に関する研究（その1）

－研究の全体と基礎調査－

○ 東洋大学 森田 明美 (646)

小林 良二 (東洋大学・345)、志村 健一 (東洋大学・2388)、清水 冬樹 (旭川大学短期大学部・6541)

キーワード：東日本大震災 学習支援 中高生支援

1. 研究目的

(1) 研究の背景と研究の全体

筆者はこれまで、東日本大震災被災地において学習支援を利用している主に中高生を対象とした支援活動にかかわってきた。そこでは、子ども自身がもともと持つ力を信じて、子どもの厳しい体験を理解し、気持ちを支え、寄り添うことを大切にして活動を進めてきた。活動は、丁寧に一人ひとりの子どもたちの成長と回復過程に寄り添い、学習支援の場を通して、学力の向上のみならず、多様な人との出会いや体験を提供することを大切にしてきた。その中では、多くの子どもたちが、被災体験を安心できる空間で、信頼できる人に対して語ることによって、自分の体験を自分の言葉で認識し、それを周囲の友人や支援者と共有することで元気を取り戻し、未来への希望につなが場面に出会ってきた。

本研究は、震災から4年たち、中高校生の時代を被災地で過ごした子どもたちが、地域から離れて新しい暮らしをする時期に入っている。加えて、被災地の学習支援の場が次々と閉鎖を迎えていることから、緊急に震災の体験を語ることができる子どもたちの力を借りて、集約しておくことが必要であることと考え、被災地で活動するNPOなどによびかけ、共同して具体化したものである。

本研究が目指していることは、以下の4つである。①被災した中高校生の生活と関係の実態調査票と方法を開発し、個別調査やグループ調査を実施しまとめる。②事例分析の方法の開発、課題解決のための支援メニューの開発③課題別に行政サービス等支援機関と支援者をつなぐための研修を開発し、実施する。④提言をまとめ、子ども参加型で子どもの声を今後の震災支援の啓発活動につなぐ。

第1次報告では、本研究の基盤として実施した量的調査について、その結果の概要を報告する

(2) 量的調査研究の目的

- ・学習支援を利用している子どもたちへの学習支援の場の役割の把握
- ・被災地の学習支援における子どもへの支援チェックシートなどの作成

2. 研究の視点および方法

(1) 調査研究の視点：以下の2つの仮説を設定した。

- ①学習支援の場が、子どもたちの自己肯定感と将来に対する希望を高めることに貢献

している②学校や家庭とは違う役割を学習支援の場は担っている

(2) 調査研究の方法：調査対象は、東日本大震災被災3県でNPOなどが主催する学習支援を利用している小学校5年生から高校3年生。2014年12月18日～2015年3月18日の期間で実施し、7団体の学習支援の場から137人の協力を得た。

(3) 調査方法：各学習支援の場で、支援者から子どもたちに対し調査票を配布してもらい、自記式で子どもたち自身が回答した。アンケートの性質上、子どもたちの震災時のことを掘り起こしてしまう可能性があることから、回答に際し、支援者はそばにいるが、調査用紙を記入時に関与はしないという形で、調査を実施した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、保護者の同意を書面で得た上で、子ども本人の同意を得ている。また、東洋大学福祉社会デザイン研究科研究倫理委員会に対し研究倫理審査の申請を行い、許可を得て実施した。

4. 研究結果

調査項目と方法は次の通りである。被災した子どもに調査という負担をかけずに自分の状況を表現できる方法として、調査用紙ではなく、エコマップを活用した表現や、生活チェック表などを作成して活用した。項目は次の通りであり、詳細は報告時に資料を配布する。①基本的属性：子どもたちの年齢、住まい、家族構成など②生活環境：エコマップを用いた子どもの表現③日常生活：お手伝い、友達との会話、暮らしのなかで感じていることなど④居場所：学習支援、学校、家族に対して感じていること⑤自己認識：自己肯定感⑥将来：将来に対する希望、進路・進学

*小学生：14.8%、中学生：59.2%、高校生：25.9% 岩手県：27.9%、宮城県：37.5%、福島県34.6%

5. 考察

調査結果からは、将来に対する希望や自己肯定感を高めることに、学習支援の場が貢献しているといくことが明らかになった。また提言として以下のことをまとめた。

1. 調査の固有性と可能性 1) 調査対象者の特色 2) 当事者参加型調査 3) 学習支援の場で行った調査の価値 2. 子ども観、子ども支援の捉えなおし—子どもの一人ひとりを見つめ寄り添ってくれること、人の重要性 3. 震災後の不安定な暮らしを支える学びの場を地域に作ることの重要性 4. 学びの場で、将来を考えることができる機会を提供することの効果 5. 支援者支援の重要性

本研究は、平成26年度厚生労働省児童福祉問題研究事業（課題1）の助成を受け、東洋大学福祉社会開発研究センターによる「高齢者、障害者、子どもの社会的孤立に対応する見守り支援・自立支援に関する総合的研究」の一環として行った。調査に協力してくれた子どもたちと、子どもたちを支えている各支援団体に感謝申し上げます。ありがとうございました。